

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立洛西中学校 】

1 実践テーマ	I・II <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：第1学年 1組（28人）2組（28人）3組（27人）5組（育成2人）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ 人権学習 ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック北京大会 日本代表コーチ 坂野 晴男氏を講師に迎え、「障がい者スポーツ」の講演・「車いすバスケットボール」の体験を通して、障がい者と交流を図り、障がい者も健常者も一人の人間として共生していく姿勢を育む。
5 取組内容	<p>*急激な新型コロナウイルス感染拡大により、急遽 ZOOM での講演とした。</p> <p>①坂野氏によるバスケットボール選手の紹介（1名）（2分）</p> <p>②坂野氏によるバスケットボールの紹介（10分）</p> <p>③山本英嗣氏より 京都府社会人車いすバスケットボールチーム選手である山本氏から、なぜ、車いす生活になったのかや、その後、努力して車いすバスケットボールチームの選手になって活躍するまでのお話（30分）</p> <p>坂野氏よりまとめ 代表生徒による坂野氏、山本選手へのお礼</p>



6 主な成果	生徒たちは講師の方と直接お会いできなかったが、「お礼を言に行きたい。どこに行けばいい？」と言う生徒もあり、生徒たちの心にひびく講演となった。特に「君たちに伝えておきたいのは、『障がい者のために、』ではなく、『だれもが暮らしやすい社会のために』という心構えで生活してほしい」との言葉は、生徒たちに共生について深く考えさせるものであった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	本来であれば、車いす体験を実施する予定だったが、該当学年に学級閉鎖のクラスもあったことから、内容を変更し、ZOOMによる講演に変更した。その講演自体を録画させていただき、学級閉鎖のクラスも後日学習できるようにした。ZOOMの画面共有機能を使用することで、山本選手の自作パワーポイントを見やすい状況で提示できた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOMの画面共有で動画を共有するのは難しい。</li> <li>・講師の承諾を得て、講演をZOOMの録画機能で残そうとしたが、事前確認をしなかったため、他の画面が録画されてしまった。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	今後も継続して、車いすバスケットボール体験を実施していくことで、障害者理解を深め、共生の心を育みたい。